

「ITを使った新しい社会」 “とっとり総研アカデミー”で石井教授が講義

とっとり総研アカデミーとは

21世紀において自らの事業・組織活動の継続・発展を担い、同時に活力ある鳥取県を形づくることのできる優れた人材・リーダーを育成する必要があります。そこで、これに必要な知識、意思決定力、行動力などの醸成を通じてリーダー同志のネットワークを形成することと、地域の課題解決と地域創造に貢献することを目的としてアカデミーが開催されています。主催はとっとり地域連携・総合研究センター（TORC）で、受講者は地域の若手経営者や企業幹部などです。

2010年5月12日の開講式に引き続き、6月9日、第2回のセミナーが開催され、石井教授が講師となって「ITを使った新しい社会」というテーマで3時間のセミナーが行われました。

セミナーの内容

講義の目標は、成熟期にある情報技術（IT: Information Technology）の黎明・導入・成長期を振り返りながらITの特長や本質を抽出し、地域の課題を対象にして、ITを活用した問題解決・地域創造の将来像を模索することに設定されました。

講義は二部構成で進められ、第一部では講師が主要テーマについて講義を行い、認識や理解を共有しました。



第一部の講義をする石井教授



講義を聴く受講者

講義の主な内容は、次のとおりです。

- (1) 「先の先」とIT
- (2) マルチメディアからITへ
- (3) ITの特長
- (4) 「先の先」の取組事例
- (5) サービスに重点化したクラウド・コンピューティング
- (6) 「先々の先か後の先か？」

続く第二部では、受講生の問題意識を顕在化・共有化しながら意見交換を行うグループ討議・発表が行われました。受講者は、事前に告げられていた課題：

- (a) 企業経営・事業運営にITは本当に必要か？
- (b) 10年後のITサービスは如何に？

という問いに対する自説を持ち寄って、熱心な討議を行いました。

アカデミーのこれから

とっとり総研アカデミーは、今後も毎月1回のペースで開催され、産業、金融、経済、経営など幅広い分野で授業と討議が行われることになっています。